

東京大学国語研究室蔵 黒川文庫目録〈語学之部〉小型本  
— 附 黒川文庫 小型本 調査報告 —

遠藤 佳那子

はじめに

本目録は、東京大学国語研究室蔵黒川文庫小型本の目録である。

当資料群は六箱の桐製の箱に分けて収められ、計五一点を数える。資料の形態は小型の折本、量物で、内容はほとんどが図表である。

他の東京大学国語研究室蔵黒川文庫本が9・26・27棚の函架番号を付されたのに対し（9が「語学」、26・27が「辞書」に相当する）、当資料群は番号も付されず別置されていたものである。しかし印記（黒川家の蔵書印や「語学」印）等の状況から黒川文庫（語学之部）に属するものと認められるため、「小型本」として一括し、ここに掲載する。

管理・閲覧の利便を考慮し、各箱の資料一覧（配列は原則五十音、刊写年順）を示した後に、全資料の書誌を五十音順に示す。

また、今回の調査の過程で得られた情報がある場合や、簡単な内容の説明が必要と判断した場合には、『備考』の項を立てて記す。

なお、本目録を編むにあたり、『東京大学文学部国語研究室所蔵古写本・古刊本目録』東京大学文学部国語研究室編、一九八六、『黒川文庫目録（本文編・索引編）』（柴田光彦編、二〇〇〇—二〇〇一）を参考に用い、資料の同定を行った。詳細は、本稿末の「調査報告」に譲る。

【凡例】

- ・書誌調査結果の表示方法は、「東京大学国語研究室蔵 黒川文庫目録〈辞書之部〉」の凡例に原則従う。
- ・編著者名は、一般的なものを採用した。
- ・本目録において、「折本」とは縦に折り畳まれた形式を指し、「畳物」とは縦に折り畳まれた上、さらに上下に畳まれた形式を指す。
- ・寸法は、縦×横の順に広げた状態を記し、(畳)で畳んだ状態を示した(原則、右辺と上辺を採寸したが、畳んだ状態の寸法は辺の最長箇所をとった)。
- ・箱の寸法は、蓋をした状態での外寸を測り、縦×横×高さの順に示した。
- ・「語学」印は無い場合のみ記載する。
- ・表紙の原後は判断しない。
- ・表紙の無い資料に関しては、〈外装〉の項目を立てた。
- ・資料に簽で付された番号は、〈表紙〉または〈外装〉の項に【】で示した。
- ・書誌作成者が内容から判断した書誌情報は「」で示した。
- ・図の有無は特記しない。
- ・字体は現行のものに改めた。

■箱一 (21.8×22.8×4.0<sup>センチ</sup>)

詞の葉 黒川真頼 写一通

詞の葉 黒川真頼 刊一鋪

詞の葉「再刻」 黒川真頼 刊一鋪

「再刻」詞の葉 黒川真頼 刊一鋪

「再刻」詞の葉 黒川真頼 刊一鋪

詞のやちまたのしをり 黒川真頼 写四通

詞格対照 黒川真頼 刊一鋪

「詞格対照」 黒川真頼 刊一鋪

新撰てにをはのやちまた 黒川真頼 写七通

辞の葉 黒川真頼 写八通

表裏挿頭あゆひ抄 黒川真頼 写一通

■箱二 (21.2×23.8×3.8<sup>センチ</sup>)

かたはみ艸 殿村常久 刊一帖

活語自他捷覧 横山由清 刊一帖

国語国音用字格 関豊脩 刊一帖

ちちのことくさ 谷森善臣 刊一鋪

ちまたのたつき 鋤柄助之 刊一帖

「中等学校教材」 日本文法表 第一表 佐藤仁之助 刊一鋪

「中等学校教材」 日本文法表 第二表 佐藤仁之助 刊一鋪

「中等学校教材」 日本文法表 第三表 佐藤仁之助 刊一鋪

「拗音開合図」 太田全斎 写一帖

■箱三 (22.8 × 14.4 × 2.9<sub>センチ</sub>)  
「俗解雑図」

黒川真頼 写六通

霊語指掌図  
霊語指掌図  
をろの鏡

伊庭秀賢 刊一鋪  
伊庭秀賢 刊一鋪  
武総陳人 刊一鋪

■箱四 (21.6 × 12.2 × 5.4<sub>センチ</sub>)

音図大全 堀秀成 刊一鋪  
仮字用例一覧 旗野士良 刊一鋪  
語学要覽 東宮鉄真呂 刊一鋪  
詞のしをり 桑門静教 刊一鋪  
語法掌覽 平田盛胤 刊一鋪  
新撰活語てにをは指掌図 小柳津要人 刊一鋪  
俗言活用図 写一鋪

■箱六 (20.5 × 11.3 × 6.0<sub>センチ</sub>)  
活語図 写一鋪  
活語略図 鈴木弘恭 刊一鋪  
活語略図 鈴木弘恭 刊一鋪  
活語略図 鈴木弘恭 刊一鋪  
五位十行活図式 清原道旧 刊一鋪  
五位十行活図式 清原道旧 刊一鋪  
詞の真澄鏡 権田直助 刊一鋪  
てにをは紐鏡「再版」 本居宣長 刊一鋪  
八衢まなび雑用抄 写一帖  
和語説略図 義門 刊一鋪  
和語説略図「補正版」 義門 刊一鋪

■箱五 (22.6 × 13.1 × 8.4<sub>センチ</sub>)

あゆひ鈔手鑑〔甲〕 春原元彦 写一鋪  
あゆひ鈔手鑑〔乙〕 春原元彦 写一鋪  
語学究理九品九格総括図式 鶴峰戊申 刊一鋪  
しきくと活く詞 刊一鋪  
経緯略図 刊一鋪  
天言活用図 写一鋪  
天言活用図 海野幸典 刊一鋪  
装脚結詞打合図 保田光則 刊一鋪  
装図 春原元彦 刊一鋪

あゆひ鈔手鑑〔甲〕 あゆいしようにてかがみ 春原元彦 写一鋪 江戸後期 箱五

○嘉永二年(1849)写、量物、表紙なし、楮紙、37.9 × 45.3<sub>センチ</sub> (量 19.5 × 8.6<sub>センチ</sub>)、漢・片・平、序跋なし  
〈印記〉頼、(頼)、道、前

〔外装〕【十六〔共二〕】、(左・直・朱) 春原元彦著  
〔外題〕『あゆひ鈔手鑑 甲』

〔巻尾〕天保十〔己亥〕年六月 平安 春原元彦識

〔奥書〕嘉永二年十二月七日夜 金子輝長写

《備考》

春原元彦『装図』片面の忠実な写本。『あゆひ鈔手鑑 乙』  
と一組。筆写者である金子輝長は黒川真頼の実弟。

### あゆひ鈔手鑑〔乙〕

あゆいしようてかがみ 春原元彦

写一鋪 江戸後期 箱五

○江戸後期写、量物、表紙なし、楮紙、37.9×45.3<sup>センチ</sup>(量19.5  
×8.6<sup>センチ</sup>)、漢・片・平、序跋なし

〔印記〕頼、〔頼〕、道、前

〔外装〕【十六〔共二〕】

〔外題〕『あゆひ鈔手鑑 乙』

〔内題〕・巻首…『装図』

《備考》

春原元彦『装図』片面の忠実な写本。『あゆひ鈔手鑑 甲』  
と一組。同時期に金子輝長により筆写されたものか。

### をろの鏡

おろのががみ 武総陳人

刊一鋪 江戸後期 箱五

○江戸後期刊、量物、表紙なし、楮紙、37.4×52.2<sup>センチ</sup>(量19.0

×9.5<sup>センチ</sup>)、漢・片・平、序跋なし、少虫損  
〔印記〕道

〔外装〕番号、「語学」印なし

〔内題〕・巻首…『をろの鏡』

### 音図大全

おんずたいぜん 堀秀成

刊一鋪 明治期 箱四 167369

○明治九年(1876)刊、量物、鳶色布地表紙、楮紙、51.5  
×72.4<sup>センチ</sup>(量17.5×9.2)、漢・片・平、序跋なし、少虫損

〔印記〕道、前、東図、「東大」、国語、「日下部文庫」、「新

井文庫」、他一種

〔表紙〕【三十九】、(題簽外題右・直・墨) 堀秀成著

〔外題〕『音図大全』

〔内題〕・巻首…『音図大全』

〔刊記〕嘉永六年九月製図

元治二年四月改正

明治九年一月再改正

版權免許 明治九年十一月二十二日

茨城県士族

著者 権少教正 堀 秀成

東京第三区七小区赤坂

一ツ木町四拾四番地寄留

神奈川県平民

出版人 門人 中村信治

神奈川県第廿一大区四小区  
小船村千二百二十五番地居住

かたはみ艸 かたばみぐさ 殿村常久

刊一帖 江戸後期 箱二

○文政一三年(1830)刊、折本、瓶覗色布目地表紙、19.6 × 192.5 枚(量19.6 × 52 枚)、漢・片・平、文政一一年(1828)自序、本居大平跋

〈印記〉頼、道、前

〈表紙〉【四】、(右上・簽・朱)殿村常久(墨)四

〈外題〉『かたはみ艸』

〈刊記〉文政十三年寅正月 崑軒藏板

活語自他捷覧 かつこじたししょうらん 横山由清

刊一帖 江戸後期 箱二

○江戸後期刊、折本、白練色金箔散らし布目地表紙、楮紙、18.2 × 212.2 枚(量18.2 × 73 枚)、漢・片・平、安政四年(1857)井上文雄序、自跋

〈印記〉頼、道、前

〈表紙〉【二十】、(左・直・墨)横山由清著

〈外題〉『活語自他捷覧 全』

〈扉〉横山由清著／活語自他捷覧／月舎藏梓

〈内題〉・扉：『活語自他捷覧』

《備考》

印記「つきのや」あり。横山由清(号「月舎」)の印か。

活語図 かつこず

写一鋪 江戸後期 箱六 L67137

○江戸後期写、量物、表紙なし、楮紙、32.4 × 47.6 枚(量16.4 × 70 枚)、漢・片・平、書入(朱墨)、序跋なし、少虫損

〈印記〉頼、道、前、東図、「東大」、国語

〈外装〉【三十六】

〈外題〉『活語図』

《備考》  
義門『和語説略図』(天保四年版)の写本。

活語略図 かつこりやくず 鈴木弘恭

刊一鋪 明治期 箱六

○明治二四年(1891)刊、量物、表紙なし、袋、楮紙、32.7 × 48.6 枚(量16.4 × 82 枚)、漢・片・平、書入(朱)、序跋なし

〈印記〉道、前

〈袋〉【十八】

「鈴木弘恭著／活語略図 全／十八公舎藏梓」

(右上・直・朱)呈上

〔外装〕【十八】

〔外題〕『活語略図 全』

〔内題〕・巻首…『活語略図』

〔刊記〕

明治廿四年十月廿五日印刷 著述兼印刷発行者 鈴木 弘恭

東京府士族 小石川区竹早町十三番地

神田淡路町一丁目一番地

同 年同月廿七日出版 発売書肆

敬 文 堂

版權免許 正価五銭

〔備考〕

「十八公舎」は鈴木弘恭の号。鈴木弘恭は黒川真頼の門徒。

活語略図 かつこりやくず 鈴木弘恭

刊一鋪 明治期 箱六

○明治二四年(1891)刊、量物、表紙なし、袋、楮紙、32.7×48.6<sup>セ</sup> (量16.3×8.3<sup>セ</sup>)、漢・片・平、書入(朱)、序跋なし

〔印記〕頼、道、前

〔袋〕【二十一】

〔鈴木弘恭著／活語略図 全／十八公舎蔵梓〕

〔右上・直・朱〕呈上

〔左・直・朱〕真道君

〔外装〕【二十一】

〔外題〕『活語略図 全』

〔内題〕・巻首…『活語略図』

〔刊記〕

明治廿四年十月廿五日印刷 著述兼印刷発行者 鈴木 弘恭

東京府士族 小石川区竹早町十三番地

同 年同月廿七日出版 発売書肆

敬 文 堂

同 年同月廿七日出版 発売書肆

版權免許 正価五銭

活語略図 かつこりやくず 鈴木弘恭

刊一鋪 明治期 箱六 167141

○明治二四年(1891)刊、量物、瓶覗色布目地表紙、楮紙、32.6×48.7<sup>セ</sup> (量16.1×8.2<sup>セ</sup>)、漢・片・平、書入(朱)、序跋なし、少虫損

〔印記〕頼、道、前、東図、〔東大〕、国語

〔表紙〕【三十二】、〔左上・直・朱〕鈴木弘恭著

〔外題〕『活語略図 全』

〔内題〕・巻首…『活語略図』

〔刊記〕

明治廿四年十月廿五日印刷 著述兼印刷発行者 鈴木 弘恭

東京府士族 小石川区竹早町十三番地

神田淡路町一丁目一番地

同 年同月廿七日出版 発売書肆

敬 文 堂

版權免許 正価五銭

仮字用例一覧 かなようれいいちらん 旗野士良

刊一鋪 明治期 箱四

○明治二九年(1896)刊、量物、表紙なし、酸性紙、37.5×37.0<sup>セ</sup>(量18.8×7.0<sup>セ</sup>)、漢・片・平、明治一八年(1883)自序、跋なし

〈印記〉頼、道、前

〈外装〉【三十】、(中・直・朱)旗野士良著

〈外題〉『仮字用例一覧』

〈内題〉・巻首…『仮字用例一覧』

〈刊記〉不許翻刻 同声会

編輯兼／発行人 東京市小石川区西江戸川町十四番地

兼松正致

印刷人 東京市牛込区市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

吉岡徹人

《備考》

明治二九年一〇月一五日発行、同声会雑誌第三号附録。もと縦18.8×横13.5<sup>セ</sup>に畳むものを、さらに縦半分に折り畳んである。

五位十行活図式 こいじゆうぎようかつずしき 清原道旧

刊一鋪 江戸後期 箱六

○江戸後期刊、量物、表紙なし、楮紙、24.4×42.1<sup>セ</sup>(量12.6×7.2<sup>セ</sup>)、漢・片・平、書入(朱墨)、両面印刷、序なし、

自跋

〈印記〉頼、道、他一種

〈外装〉(内題右傍)【二十六】

〈内題〉・巻首…『五位十行活図式』

《備考》『黒川文庫目録』において「レ」印なし。

五位十行活図式 こいじゆうぎようかつずしき 清原道旧

刊一鋪 江戸後期 箱六

○江戸後期刊、量物、表紙なし、楮紙、24.3×42.1<sup>セ</sup>(量12.2×7.2<sup>セ</sup>)、漢・片・平、両面印刷、序なし、自跋

〈印記〉頼、道、他一種

〈外装〉内題が見えるよう折り畳まれ、内題右傍に【二十

七】

〈内題〉・巻首…『五位十行活図式』

語格要覧 こかくようらん 東宮鉄真呂

刊一鋪 明治期 箱四

○明治三年(1890)刊、量物、藍鼠色布目地表紙、楮紙、24.8×13.6<sup>セ</sup>(量13.0×7.5<sup>セ</sup>)、漢・片・平、書入(朱)、序跋なし

序跋なし

〈印記〉頼、道、前

〈表紙〉【十二】

〈外題〉『語格要覧(東宮鉄真呂編) 全』

〈内題〉・凡例：『語格要覧』

〈刊記〉

明治二十三年五月廿三日印刷  
明治二十三年五月廿四日出版

著作兼  
発行人

栃木県平民  
東京市浅草区駒形町四十四番地寄留  
東 宮 鉄 真 呂

〈巻尾識語〉 文政十三年庚寅十一月 皐屋主人 鶴峰戊申

〈刊記〉 徹古究理堂藏  
言語国音用字格 こくごんようじかく 関豊脩

東京府士族

版權所有

印刷者

大 沢 敬 徳

東京市浅草区手束村四百七番地

《備考》

本資料の他に、国立国会図書館にも二点蔵書が確認できる。本資料と異なり、国立国会図書館蔵本は二点とも埋木して改訂した箇所が確認できることから、本資料は国立国会図書館蔵本に先行する版であることがわかる。

語学究理九品九格総括図式

こがくきゆうりきゆうひんきゆうかくそうかつずしき

鶴峰戊申

刊一鋪 江戸後期 箱五

○江戸後期刊、量物、表紙なし、楮紙、31.3×81.2<sup>セ</sup>（量15.9×10.1<sup>セ</sup>）、漢・片・平、序跋なし、少虫損

〈印記〉 頼、道、前

〈外装〉【二十四】、（左・直・朱）鶴峰戊申著

〈外題〉『語学究理九品九格総括図式』

〈内題〉・巻首：『語学究理九品九格総括図式』

〈巻尾識語〉 文政十三年庚寅十一月 皐屋主人 鶴峰戊申

〈刊記〉 徹古究理堂藏

言語国音用字格

こくごんようじかく 関豊脩

刊一帖 江戸後期 箱一 L67136

○江戸後期刊、折本、薄柿色無地表紙、17.6×89.1<sup>セ</sup>（量17.6×7.5<sup>セ</sup>）、漢・片・平、両面印刷、書入（朱）、文化二二年（1815）自序、石川雅望跋、少虫損

〈印記〉 頼、〔頼〕、道、前、東図、〔東大〕、国語、〔寶屋〕

〈表紙〉【三十三】、（左・直・朱）関豊脩著

〈外題〉『言語国音用字格』

〈内題〉・巻首（表面）：『〔国語／国音〕用字格』

・巻首（裏面）：『国音の仮字』

〈後表紙〉（左・直・墨）己丑仲秋 寶屋

詞のしをり ことばのしおり 桑門静教

刊一鋪 江戸後期 箱四

○天保元年（1830）刊、量物、菜の花色布目地表紙、楮紙、30.2×78.1<sup>セ</sup>（量15.2×6.1<sup>セ</sup>）、漢・片・平、序なし、天保元年（1830）自跋

〈印記〉 頼、道、前

〈表紙〉【十五】、（右・直・墨）桑門静教著

〈外題〉『詞のしをり』



〈刊記〉天保元年十二月

詞の葉 ことばのしおり 黒川真頼

写一通 明治期 箱一

○明治期写、量物、表紙なし、楮紙、33.5×150.3<sup>セ</sup>（量17.3×7.8<sup>セ</sup>）、漢・片・平、書入（朱）、序なし、橋本高広・青山磯根跋、少虫損

〈印記〉頼、道、前

〈外装〉【二十三】

〈内題〉・巻首…『詞の葉』

《備考》

小紙片による校合あり。『詞の葉』稿本か。

詞の葉 ことばのしおり 黒川真頼

刊一鋪 明治期 箱一

○明治期刊、量物、表紙なし（後表紙のみ残、枇杷茶色布目地）、楮紙、29.2×79.3<sup>セ</sup>（量14.5×6.7<sup>セ</sup>）、漢・片・平、書入（朱墨）、序跋なし

〈印記〉〔頼〕、道、前

〈外装〉番号なし、「語学」印なし

〈内題〉・巻首…『詞の葉』

《備考》

胡粉、貼紙による訂正、書入れが多数箇所見える。『（再

刻）詞の葉』に向けた改訂作業の跡か。

詞の葉 [再刻] ことばのしおり 黒川真頼

刊一鋪 明治期 箱一 L67143

○明治期刊、量物、表紙なし、楮紙、30.0×75.5<sup>セ</sup>（量15.0×6.1<sup>セ</sup>）、漢・片・平、書入（褐朱・墨）、序跋なし、少虫損

〈印記〉頼、〔頼〕、道、東図、「東大」、国語、「光長」（朱巴）、「黒光」（朱巴）

〈外装〉【四十一】、「語学」印なし、（右・直・朱）第一

〈裏面〉（左・直・朱）黒川光長、（左下・直・墨）光長

〈外題〉『詞の葉』

〈内題〉・巻首…『詞の葉』

《備考》

外題、内題ともに『詞の葉』だが、内容から再刻と判断。

「光長」は黒川真道の前名。

[再刻] 詞の葉 ことばのしおり 黒川真頼

刊一鋪 明治期 箱一

○明治期刊、量物、共紙表紙、楮紙、30.3×76.9<sup>セ</sup>（量15.1×5.9<sup>セ</sup>）、漢・片・平、書入（褐朱）、序跋なし

〈印記〉頼、道、前

〈外装〉【四十二】、「語学」印なし、（直・朱）第二

〈外題〉『〔再刻〕詞の栞』

〈内題〉・巻首…『詞の栞』

〔再刻〕詞の栞 ことばのしおり 黒川真頼

刊一鋪 明治期 箱一

○明治期刊、量物、猩々緋色小葵紋（艶出）表紙、楮紙、30.3×77.0<sup>セ</sup>（量15.1×52<sup>セ</sup>）、漢・片・平、書入（朱墨）、序跋なし

〈印記〉頼、「黒川光長」

〈表紙〉【四十三〔共二〕】、「語学」印なし

〈外題〉『〔再刻〕詞の栞』

〈内題〉・巻首…『詞の栞』

〈後表紙〉（直・墨）黒川真道

《備考》

巻末に『詞格指掌図』（縦14.7×横20.0<sup>セ</sup>）が貼付される。「黒川光長」は黒川真道の前名。

詞の真澄鏡 ことばのますみかがみ 権田直助

刊一鋪 明治期 箱六 167139

○明治期刊、量物、黄檀染色布張表紙、楮紙、35.8×59.2<sup>セ</sup>（量17.9×7.6<sup>セ</sup>）、漢・片・平、序跋なし

〈印記〉道、前、帝図、「東大」、国語

〈表紙〉【三十七】、（題簽左下・直・朱）権田直助著

〈外題〉『詞の真澄鏡〔教典入門〕』

〈内題〉・見返し…『詞の真澄鏡』

詞のやちまたのしをり

ことばのやちまたのしおり 黒川真頼

写四通 明治期 箱一

○明治期写、量物

① 28.1×40.3<sup>セ</sup>（量14.5×11.0<sup>セ</sup>）、書入（朱）

② 27.2×40.1<sup>セ</sup>（量14.5×11.0<sup>セ</sup>）

③ 27.1×37.9<sup>セ</sup>（量14.5×11.0<sup>セ</sup>）

④ 27.9×38.5<sup>セ</sup>（量14.5×11.0<sup>セ</sup>）、書入（朱）

漢・片・平、序跋なし

〈外装〉【廿八〔共廿一〕】（四通全て）

《備考》

①内題なし、「金子真頼編輯」と署名あり。区画ごとに切り抜いたり貼り合わせたりした形跡あり。

②内題『詞のやちまたのしをり』、「黒河真頼著」と署名あり。細かい切り抜き、貼り合わせなどあり。

③内題、署名なし。切り貼りなし。

④内題、署名なし。上から小紙片を貼り、訂正した箇所多数あり。他の三通と紙質が異なる。

語法掌覽

ごほうししょうらん 平田盛胤

刊一鋪 明治期 箱四

○明治二八年(1895)刊、量物、薄群青色布目地表紙、酸性紙、34.0×60.0<sup>セ</sup>(量17.0×7.6<sup>セ</sup>)、漢・平、自序、跋なし、少破

〈印記〉頼、道、前

〈表紙〉【十九】

〈外題〉『語法掌覽』

〈内題〉・巻首…『語法掌覽』

〈刊記〉

明治二十八年七月卅日印刷 明治二十八年八月三日出版

小石川区小日向第六天町十七番地

編輯者 平田盛胤

神田区仲猿楽町十五番地

発行者 国語伝習所

右代表者

杉浦鋼太郎

麹町区飯田町二丁目五十番地

印刷者 同益社

右代表者

酒井竹次郎

《備考》

外題は活字印刷による。

詞格対照

しかくたいしょう

黒川春村・黒川真頼

刊一鋪 明治期 箱一

○明治期刊、量物、猩々緋色菊花紋(艶出)表紙、30.2×40.5<sup>セ</sup>(量15.0×5.2<sup>セ</sup>)、漢・片・平、書入(朱)、序なし、自跋

〈印記〉頼、道

〈表紙〉【四十四(共二)】

〈外題〉『詞格対照』

〈内題〉・巻首…『詞格対照』

《備考》

右上に『詞格指掌図』(縦14.8×横21.8<sup>セ</sup>)を貼付。『詞格指掌図』には黒川真道蔵書印のみ。

〔詞格対照〕

しかくたいしょう

黒川春村・黒川真頼

刊一鋪 明治期 箱一 167142

○明治期刊、量物、猩々緋色小葵紋(艶出)表紙、楮紙、27.1×41.4<sup>セ</sup>(量13.6×5.1<sup>セ</sup>)、漢・片・平、序なし、自跋

〈印記〉東図、〔東大〕、国語

〈表紙〉番号なし、「語学」印なし

〈外題〉『〔再刻〕詞の栞』

〈内題〉・巻首…『詞格対照』

《備考》

外題と内容が異なる。表紙の紙は他の『〔再刻〕詞の栞』

と同じ紙と思われる。黒川文庫の蔵書印がいずれも無い。

しきくと活く詞 しきくとはたらくことば

刊一鋪 江戸後期 箱五

○江戸後期刊、量物、表紙なし、楮紙、24.2 × 33.2 ㍍ (量 12.5 × 5.6 ㍍)、漢・片・平、両面印刷、序跋なし

〈印記〉頼、道、前

〈外装〉【二十二】

〈内題〉・卷首(表面)：『しきくと活く詞』

・卷首(裏面)：『なにぬねとはたらく詞』『つとはたらく詞』

〈刊記〉木園蔵

《備考》

『黒川文庫目録』に従い便宜的に題を「しきくと活く詞」としたが、実際は裏面の「なにぬねとはたらく詞」「つとはたらく詞」の活用表一種と合わせて、計二種の図からなる。

### 新撰活語てにをは指掌図

しんせんかつてにをはししようず 小柳津要人

刊一鋪 明治期 箱四 167149

○明治三〇年(1897)刊、量物、黄檗色卍つなぎ地(艶出)表紙、楮紙、32.6 × 47.2 ㍍ (量 10.9 × 7.9 ㍍)、漢・平、

二色刷り、序跋なし

〈印記〉頼、道、前、東図、(東大)、国語

〈表紙〉【三十五】、(右・直・朱)進呈

〈外題〉『新撰〔活語てにをは〕指掌図 全』

〈内題〉・卷首(上段)：『新撰活語指掌図』

・卷首(下段)：『新撰てにをは指掌図』

〈刊記〉明治三十年五月十七日印刷

明治三十年五月二十日発行

版權所有(定価金八銭)

編輯兼発行者 東京日本橋区通三丁目十四番地

小柳津要人

印刷者 東京日本橋区兜町二番地東京印刷株式会社

三井 駒治

発行所 東京日本橋区通三丁目十四番地

丸善株式会社書店

印刷所 東京日本橋区兜町二番地

東京印刷株式会社

《備考》

黒川真頼『詞の栞』を編集したもの。

### 新撰てにをはのやちまた

しんせんてにをはのやちまた 黒川真頼

写七通 明治期 箱一

○明治期写、量物、表紙なし、楮紙

① 15.0 × 36.0 ㍍ (量 15.0 × 9.1 ㍍)

② 13.5 × 95.4 ㍍ (量 13.9 × 7.6 ㍍)

③ 13.5 × 34.0 ㍍ (量 13.8 × 8.6 ㍍)

- ④ 13.5 × 34.0 ㊦ (量 13.5 × 9.3 ㊦)
- ⑤ 13.6 × 33.1 ㊦ (量 13.6 × 9.1 ㊦)
- ⑥ 27.0 × 40.0 ㊦ (量 13.6 × 10.0 ㊦)
- ⑦ 27.9 × 38.7 ㊦ (量 13.9 × 10.4 ㊦)

漢・片・平、書入(朱)、序跋なし

〔外装〕【廿八】(共通全)

〔外題〕①『新撰てにをはのやちまた／第一階之図』

〔内題〕・巻首：①『新撰てにをはのやちまた／第一階之図』

- ②『新撰てにをはのやちまた／第二階之図』
- ③『新撰てにをはのやちまた／第三階之図』
- ④『新撰てにをはのやちまた／第四階之図』
- ⑤『新撰てにをはのやちまた／第五階之図』

《備考》

①裏打あり「昭和四十二年八月二日裏打修補」

⑥形容詞カリ活用の図

⑦「第一階」から「第五階」合わせた全体図

承接によって助詞・助動詞を分類し、それぞれの活用を示した表。終止形・連体形・已然形の三段からなる。詳細は本稿末「調査報告」を参照。

〔俗解雑図〕

ぞくかいざつず

黒川真頼

写六通 明治期 箱三

○明治期写、量物、表紙なし、楮紙、

① 35.0 × 74.0 ㊦ (量 18.0 × 11.0 ㊦)

② 24.4 × 26.7 ㊦ (量 12.5 × 6.9 ㊦)

③ 27.0 × 40.0 ㊦ (量 14.3 × 10.1 ㊦)

④ 16.0 × 68.7 ㊦ (量 16.5 × 10.4 ㊦)

⑤ 33.2 × 20.8 ㊦ (量 17.5 × 8.0 ㊦)

⑥ 34.0 × 48.8 ㊦ (量 17.5 × 8.9 ㊦)

漢・片・平、書入(朱)、序跋なし

〔外装〕【共廿一】廿八】

《備考》

①用言の活用表、裏打あり「昭和42年8月9日裏打」

②助動詞・形容詞語尾の俗語訳の書付け。

③「行く」を例に、助詞・助動詞の承接を展開させた図。

④「来」「為」「就」など各行音義的な俗語訳を列挙する。

⑤完了「ぬ」に種々の助詞が接続した例を列挙し、俗語訳を付す。

⑥打消「ず」に種々の助詞が接続した例を列挙し、俗語訳を付す。

俗言活用図

ぞくげんかつようず

写一鋪 明治期 箱四

○明治期写、量物、鳥ノ子色無地表紙、楮紙、26.8 × 60.7 ㊦ (量 13.4 × 5.7 ㊦)、漢・片・平、書入(朱)、序跋なし

〈印記〉道、前、黒川（朱巴）

〈表紙〉番号なし、「語学」印なし

〈外題〉『俗言活用図』

〈備考〉

『詞の栞』の枠組みに準じて俗言の活用体系を图表にし  
たもの。

**経緯略図** たてぬきりやくず

刊一鋪 江戸後期 箱五

○江戸後期刊、量物、表紙なし、楮紙、袋、27.8×40.0<sup>セ</sup>  
（量14.0×10.0<sup>セ</sup>）、漢・片・平、序跋なし

〈印記〉頼、道、前

〈袋〉【二十五】、「経緯略図／桜園蔵梓」

〈外装〉【二十五】

〈外題〉『経緯略図』

〈内題〉・巻首：『経緯略図（五十音也／たてぬき／トモ云）』

〈刊記〉桜園蔵梓

**ちちのこことくさ** ちちのこことくさ 谷森善臣

刊一鋪 江戸後期 箱二

○慶応三年（1867）刊、量物、表紙なし、楮紙、27.4×121.5<sup>セ</sup>  
（量14.5×71.5<sup>セ</sup>）、漢・片・平、自序、跋なし

〈印記〉頼、道

〈外装〉【三十四】

〈外題〉『ちちのこことくさ（谷森善臣著／慶應三年再刻本）』

〈刊記〉慶応三年五月再刻安政二年五月原刻 棗園蔵板

〈備考〉

二箇所裏打して貼り合わせ、裏に鉛筆で「S42824 貼合  
ワセリ」とあり。『黒川文庫目録』において「レ」印なし。

**ちまたのたつき** ちまたのたつき 鋤柄助之

刊一帖 江戸後期 箱二

○江戸後期刊、折本、舛花色布目地表紙、楮紙、16.8×95.4<sup>セ</sup>  
（量16.8×51.5<sup>セ</sup>）、漢・片・平、序跋なし、少虫損

〈印記〉頼、道

〈表紙〉【十】、（左・簽・朱）鋤柄助之著（墨）十

〈外題〉『ちまたのたつき』

**辞の栞** てにをはのしおり 黒川真頼

写八通 明治期 箱一

○明治期写、折本、楮紙

① 16.5×77.6<sup>セ</sup>（量16.9×7.9<sup>セ</sup>）

② 16.5×35.4<sup>セ</sup>（量16.6×8.5<sup>セ</sup>）

③ 16.5×192.9<sup>セ</sup>（量18.3×9.3<sup>セ</sup>）

④ 16.5×77.5<sup>セ</sup>（量16.8×7.7<sup>セ</sup>）

⑤ 16.5×47.7<sup>セ</sup>（量16.6×7.7<sup>セ</sup>）

⑥ 16.5 × 5.4 寸

⑦ 16.5 × 3.2 寸

⑧ 16.5 × 41.1 寸 (量 16.6 × 7.5 寸)

漢・片・平、序跋なし

〈外装〉①③④⑤に【二十八(共二十一)】

〈内題〉・巻首…①『辞の葉 一階之図』

②『なむの属』

③『辞の葉 二階之図』

④『辞の葉 三階之図』

⑤『辞の葉 四階之図』

⑥『体言のてにをは』

⑦『辞の葉 五階之図』

⑧『三転へわたらぬ辞の類』

《備考》

承接によって助詞・助動詞を分類し、それぞれの活用を示した表。五活用形からなる。紙に書きつけたものを切り分けたり貼り合わせたりしたものと思われる。①と②、⑦と⑧は、ひと続きであったものが剥離したり間が抜けたようである。『詞の葉』や他の写本と校合して整序した。詳細は本稿末「調査報告」参照。

てにをは紐鏡〔再版〕

てにをはひもかがみ 本居宣長

刊一鋪 江戸後期 箱六

○文化一三年(1816)刊、量物、鍔浅葱色布目地表紙、楮紙、149.5 × 31.1 寸 (量 15.6 × 7.2 寸)、漢・片・平、書入(朱墨)、序なし、文化一三年(1816)自跋、墨損

〈印記〉頼、道、前

〈表紙〉【五】、(右・簽・朱)本居宣長著(墨)五

〈外題〉『てにをは紐鏡〔再版〕』

〈内題〉・巻首…『ひも鏡』

〈刊記〉明和八年卯十月

于時文化十三年子五月再版

松坂 本居宣長

皇都 五車楼蔵

書林 華箋堂蔵

〈後表紙〉五十音図(片仮名)の書入(墨)

天言活用図

てんげんかつようず 海野幸典

写一鋪 江戸後期 箱五

○江戸後期写、量物、玉蜀黍色布目地表紙、楮紙、36.2 × 153.9 寸 (量 18.2 × 8.5 寸)、漢・片・平、序なし、自跋、虫損

〈印記〉頼、(頼)、道、前

〈表紙〉【六】

〈外題〉『天保癸ノ巳新刻』天言活用図

海野幸典著

〈内題〉・巻首…『天言活用図』

《備考》

版本（天保四年一月二日跋）の忠実な写本。

天言活用図 てんげんかつようず 海野幸典

刊一鋪 江戸後期 箱五

○天保四年（1833）刊、量物、表紙なし、楮紙、32.8×133.6  
センチ（量16.5×8.5センチ）、漢・片・平、序なし、自跋、書入（朱）、  
少虫損

〈印記〉頼、道

〈外装〉【七】

（中・簽・朱）海野幸典著／春村書入（墨）七

〈外題〉『天言活用図』

〈奥書〉天保四年十一月十一日 海野幸典著

〈識語〉右楮墨もて比較しつるははしめのほとにすれる本のまゝなりさるを後に添削してかくあらため訂したるなめれば今さらえうなきしわさには似たれとはしめにはしか／＼ありつとこゝろ得てもまたあらまほしくてなむ

嘉永三年十二月  
（春村花押）

《備考》

春村による本文への書入は「口授」を「口伝」に訂正するなど、数か所のみ。

〔中等学校教材〕日本文法表 第一表

にほんぶんぼうひょう 佐藤仁之助

刊一鋪 大正期 箱二

○大正六年（1917）刊、量物、赤白椴色無地表紙、酸性紙、25.7  
×71.7センチ（量12.9×8.1センチ）、漢・片・平・羅、序跋なし  
〈印記〉前

〈表紙〉【四十五】、「語学」印なし

〈外題〉『中等学校教材』日本文法表 第一表

〈内題〉・巻首：『中等学校／教材』日本文法表（第二）

〈刊記〉大正六年一月印刷 東京日本橋本  
大正六年六月発行 著者 佐藤仁之助 発行者 石町三ノ七 大葉久吉  
東京牛込区加

印刷者 實町一ノ二 青柳十一郎 印刷所 實町一ノ二 秀英舎工場

定価 金八銭

《備考》

佐藤仁之助は『字音問答案』（明治二七年成、『黒川真頼全集』第六卷所収）校者の一人。

〔中等学校教材〕日本文法表 第二表

にほんぶんぼうひょう 佐藤仁之助

刊一鋪 大正期 箱二

○大正六年（1917）刊、量物、赤白椴色無地表紙、酸性紙、26.3  
×71.0センチ（量14.2×8.1センチ）、漢・片・平、序跋なし  
〈印記〉前

〈表紙〉【四十六】、「語学」印なし



〔外題〕『中等学校教材』日本文法表 第二表

〔内題〕・巻首…『中等学校／教材』日本文法表(第二)

〔刊記〕  
大正六年一月印刷 東京日本橋本  
大正六年六月発行著者 佐藤仁之助 発行者石町三ノ一七 大葉久吉

東京牛込区加 印刷所 賀町一ノ二 秀英舎工場  
定価金八銭

〔中等学校教材〕日本文法表 第三表

にほんぶんぼうひょう 佐藤仁之助

刊一舗 大正期 箱二

○大正六年(1917)刊、量物、赤白椋色無地表紙、酸性紙、264  
× 110.6<sup>セ</sup> (量 134 × 9.5<sup>セ</sup>)、漢・片・平、序跋なし

〔印記〕前

〔表紙〕【四十七】、「語学」印なし

〔外題〕『中等学校教材』日本文法表 第三表

〔内題〕・巻首…『中等学校／教材』日本文法表(第二)

〔刊記〕  
大正六年一月印刷 東京日本橋本  
大正六年六月発行著者 佐藤仁之助 発行者石町三ノ一七 大葉久吉

東京牛込区加 印刷所 賀町一ノ二 秀英舎工場  
定価金八銭

表裏挿頭あゆひ抄 ひょうりかざしあゆいしょう

写一帖 江戸後期 箱一

○江戸後期写、折本、白茶色無地表紙、楮紙、15.5 × 58.3<sup>セ</sup>  
(量 15.5 × 6.0<sup>セ</sup>)、漢・片・平、序跋なし

〔印記〕頼、道、前

〔表紙〕【二十九】、「語学」印なし

〔外題〕『表裏挿頭あゆひ抄』

〔備考〕

題簽の擦れのため外題の判読が難しいが、『黒川文庫目録』

より同定。『挿頭抄』『脚結抄』中の見出し語・訳語を抄出

した書。『脚結抄』からの抄出は四項目のみで、殆どが『挿

頭抄』からの抄出。

八衢まなび雑用抄 やちまたまなびざつようしょう

写一帖 明治期 箱六

○明治期写、折本、薄藍鼠色無地表紙、楮紙、16.8 × 70.8<sup>セ</sup>  
(量 16.8 × 7.2<sup>セ</sup>)、漢・片・平、両面、序跋なし

〔印記〕頼、道、前

〔表紙〕【八】

〔外題〕『八衢まなび雑用抄 全』

〔備考〕

以下三つの図表と、テニヲハの一覧表から成る。

図①…義門『和語説略図』の抄出

図②…義門『こと葉の道しるべ』所載の活用表の写し

図③…義門『こと葉の道しるべ』所載の活用表の写し

テニヲハの一覧表は、承接する活用形ごとに配列し、里  
言や簡単な語釈を付す。富士谷成章『あゆひ抄』、市岡猛彦

『ひも鏡うつし辞』、殿村常久『かたはみ草』、黒川春村の  
説に拠る。

表紙は本体から剥離し、黒川本「辞書」部門の資料に挟  
まれていた(二〇一五年発見、同年四月一六日確認)。

表紙の番号が書かれた簽は、上半部に空白がとられ、最  
下部に番号「八」が墨書きされる。後から空白部分に著者  
名を記入する予定だったと察せられる。

### 〔拗音開合図〕

ようおんかいごうず 太田全齋

写一帖 江戸後期 箱二

○江戸後期写、折本、表紙なし(後表紙のみ残、藤煤竹色  
卍(なぎ)地草花唐草紋(押型)、楮紙、19.6×28.4<sup>センチ</sup>(量)19.7  
×6.2<sup>センチ</sup>)、漢・片・平、序跋なし、書入(朱)、少虫損

〈印記〉道

《備考》

太田全齋『漢吳音図』所載「拗音開合図」及び「拗音図  
説」の写し。裏面には『漢字三音考』の説を引用する。

### 装脚結詞打合図

よそいあゆいことばうちあわせず 保田光則

刊一鋪 江戸後期 箱五

○弘化四年(1847)刊、量物、舛花色無地表紙、楮紙、33.4  
×131.4<sup>センチ</sup>(量)16.9×8.4<sup>センチ</sup>)、漢・片・平、序跋なし、書

入(朱)、虫損

〈印記〉頼、「頼」、道、前

〈表紙〉【九】、(右・簽・朱) 保田光則著(墨) 九

〈外題〉『装脚結詞打合図』

〈内題〉・卷首(右) … 『装詞打合図』

・卷首(左) … 『脚結詞打合図』

〈巻尾識語〉弘化四年正月 仙台渚舎 保田光則識

〈刊記〉渚舎蔵板

《備考》

紙面に二種の図が配される。右側『装詞打合図』、左側『脚  
結詞打合図』。

装図 よそいず 春原元彦

刊一鋪 江戸後期 箱五

○天保一〇年(1839)刊、量物、表紙なし、楮紙、38.0×51.2<sup>センチ</sup>  
(量)19.1×9.0<sup>センチ</sup>)、漢・片・平、両面印刷、序跋なし

〈印記〉頼、道、前

〈外装〉【十七】、(左・直・墨) 春原元彦著

〈外題〉『装図』

〈内題〉・卷首… 『装図』

〈刊記〉天保十〔己亥〕年六月 平安 春原元彦識

皇都書林 葛西市郎兵衛

《備考》

尾崎知光により紹介された資料『富士之山文』と同一資料（『富士之山文』について『愛知県立大学文学部論集』二六号、一九七七）。尾崎（一九七七）では『あゆひ鈔手鑑』については言及があるが、当該資料については言及がない。

**靈語指掌図**

れいごしししょうず

伊庭秀賢

刊一鋪 江戸後期 箱五

○慶応三年（1867）刊、量物、赤目椽色布目地表紙、楮紙、29.7×202.7セ（量15.2×8.3セ）、漢・片・平、序跋なし、少虫損

〈印記〉頼、道、前

〈表紙〉【十四】、（左・直・墨）伊庭秀賢著

〈外題〉『靈語指掌図』

〈刊記〉天保乙未初春

同己亥暮春刻

慶応丁卯暮春

詞林園伊庭秀賢撰

同社中蔵板

同門人知新再刻

**靈語指掌図**

れいごしししょうず

伊庭秀賢

刊一鋪 江戸後期 箱五 16714

○慶応三年（1867）刊、量物、舛花色布目地表紙、楮紙、30.3×202.7セ（量16.5×7.5セ）、漢・片・平、序跋なし、書入（朱）

〈印記〉道、前、東図、〔東大〕、国語

〈表紙〉【三十八】、（左・直・朱）伊庭秀賢著

〈外題〉『靈語指掌図』

〈刊記〉天保乙未初春

同己亥暮春刻

慶応丁卯暮春

詞林園伊庭秀賢撰

同社中蔵板

同門人知新再刻

**和語説略図**

わごせつ（ち）のりやくず 義門

刊一鋪 江戸後期 箱六

○江戸後期刊、量物、表紙なし、楮紙、29.7×39.8セ（量14.9×7.0セ）、漢・片・平、序なし、天保四年（1833）自跋

〈印記〉頼、道、前

〈外装〉【十三】、（右上・簽・朱）義門著（墨）十三

〈外題〉『和語説略図』

〈内題〉・巻首：『和語説略図』

**和語説略図**〔補正版〕

わごせつ（ち）のりやくず 義門

刊一鋪 江戸後期 箱六

○江戸後期刊、量物、藍鼠色布目地表紙、楮紙、30.7×77.1セ（量15.4×6.8セ）、漢・片・平、序なし、天保四年（1833）自跋、虫損

〈印記〉頼、〔頼〕、道

〈表紙〉【十一】、（右上・簽・朱）義門著（墨）十一

〈外題〉『和語説略図』

〔内題〕・卷首：『和語説ノ略図』

〔巻尾〕 壬寅春 義門 又云

をろの鏡

↓ おろのかがみ

## 黒川文庫 小型本 調査報告

### 一、資料群の概要

当資料群は、六箱の桐製の箱に分けて収められ、計五一点を数える。資料の形態は小型の折本、量物である。内容はほとんどが図表で、書誌名の判定しにくい資料もあった。そこで、『黒川文庫目録（本文編・索引編）』（柴田光彦編、二〇〇〇—二〇〇一）、『東京大学文学部国語研究室所蔵古写本・古刊本目録』（東京大学文学部国語研究室編、一九八六、以下『東大目録』と称する）の記載を対照させ、資料の同定を行った。

対照した結果、ほぼ全ての資料に付された簽の番号が、「便宜的に、書名の頭に漢字平数字で通し番号を付した」（柴田二〇〇〇「凡例」とされる番号と概ね一致した。すなわち、『黒川文庫目録（本文編）』における「十九 語学」、「一」〜「四七」（三三九〜三四〇頁）に該当する資料群であることが明らかになった。

同時に、『黒川文庫目録』に登録されていない資料が数点あることが確認できた。そして、『黒川文庫目録』で「レ」印（関東大震災後の残本調査時のものと考えられる）が無く、散逸したと思われる資料のうち、三点の残存を確認す

ることができた。詳細は、本稿末に添付した【表一】を参照されたい。この事実は、『黒川文庫目録』において「レ」印が無い資料であっても、僅かではあるが、今後発見される可能性がある、ということを示唆している。

## 二、黒川真頼の草稿「語学雑図」について

資料群のうち、黒川真頼によると思われる稿本が何点かある。そのうち、「二十八（共二十一）」の簽が貼られた次の資料四点は、『黒川文庫目録』所載の「二十八レ〇 語学雑図 共二十八枚一袋入 一袋入 一」に該当すると考えられる。もとは「語学雑図」として一袋にまとめて管理されていたものが、移管の過程で小分けにされたものである。

詞のやちまたのしをり	写四通（箱一）
新撰てにをはのやちまた	写七通（箱一）
辞の葉	写八通（箱一）
〔俗解雑図〕	写六通（箱三）

右の書誌名は『東大目録』に拠る。箱三「俗解雑図」のみ記載が無かったため、仮にこのように名付けた。合計二五通で、『黒川文庫目録』にある「二十八枚」、簽にある「共

二十一」、それぞれに合致しない。だが、資料に貼られた簽を数えると二一枚（『辞の葉』八通のうち簽が付されているのは四通のみ）で、「共二十一」の記述には合う。貼り合わされた資料どうしの糊付けが甘い箇所もあり、簽を貼って数を確認した後に、分かれてしまったのであろう。

以下に、それぞれの内訳を改めて示し、内容の情報を記す。なお、本資料の成立時期や学史的な位置づけの考察は、遠藤（二〇一六）を参照されたい。

### ■詞のやちまたのしをり 写四通（箱一）

本居春庭「四種の活の図」の形式に準じた用言の活用表。改訂箇所から成立順序を検討し、次のように整理した。

- ①内題なし、「金子真頼編輯」と署名あり。区画ごとに切り抜いたり貼り合わせたりした形跡あり。
- ②内題『詞のやちまたのしをり』、「黒河真頼著」と署名あり。細かい切り抜き、貼り合わせなどあり。
- ③内題、署名なし。切り貼りなし。
- ④内題、署名なし。上から小紙片を貼り、訂正した箇所多数あり。他の三通と紙質が異なる。

### ■新撰てにをはのやちまた 写七通（箱一）

①内題『新撰てにをはのやちまた』第一階之図』

未然形接続の助詞・助動詞の活用表。

②内題『新撰てにをはのやちまた／第二階之図』  
連用形接続の助詞・助動詞の活用表。

③内題『新撰てにをはのやちまた／第三階之図』  
終止形接続の助詞・助動詞の活用表。

④内題『新撰てにをはのやちまた／第四階之図』  
連体形・体言に接続する助詞・助動詞の活用表。

⑤内題『新撰てにをはのやちまた／第五階之図』  
已然形接続の助詞を列挙した表。

⑥内題なし、形容詞カリ活用之図。

⑦内題なし、「第一階」から「第五階」合わせた全体図。

①～⑤は、承接によって助詞・助動詞を分類した上で、助動詞の活用を示したものである。原則、終止形・連体形・已然形の三活用形からなり、係結びの三転に準拠するものと思われる。

■辞の栞 写八通(箱一)

①内題『辞の栞 一階之図』

未然形接続の助詞・助動詞の活用表。

②内題『なむの属』

①と同じく、未然形接続の助詞・助動詞の活用表。『一階之図』の続きと思われる。

③内題『辞の栞 二階之図』

連用形接続の助詞・助動詞の活用表。

④内題『辞の栞 三階之図』

終止形接続の助詞・助動詞の活用表。

⑤内題『辞の栞 四階之図』

連体形・体言に接続する助詞・助動詞の活用表。

⑥内題『体言のてにをは』

助詞「ばかり」「がに」「はた」「まで」「より」などが列挙される。「ばかり」「がに」「はた」に付けられた印を示して、「此印は兩階にて受る印」とあることから、「三階」と「四階」、両方の表にまたがることを想定していたと思われる。

⑦内題『辞の栞 五階之図』

冒頭部分のみ残存しており、かろうじて「ばどども」という文字の右側部分のみ確認できる程である。おそらく已然形接続の助詞の表が続いたと思われる。

⑧内題『三転へいたらぬ辞の類』

助詞「と」「とて」などが列挙される。内題として取った題の前に、「ど」「ども」とあるのが確認でき、『五階之図』の末尾部分と推測される。

助詞・助動詞を承接によって整理し、さらに助動詞の活用を展開させた表。五活用形で、係り結びを示す横軸が入

るなど、『新撰てにをはのやちまた』には無かった要素が入

三、まとめ

っており、『新撰てにをはのやちまた』を發展させたものと思われる。この時点では係り結びは「三転」とあるが、草稿『詞の栞』では「指辞五条」と称されていることから、草稿『詞の栞』よりやや前の段階の説であると推察される。

■「俗解雑図」 写六通（箱三）

- ①内題なし、用言の活用表。各欄に俗語訳の書入あり。
- ②内題なし、助動詞・形容詞語尾の俗語訳の書付け。
- ③内題なし、「行く」を例に、助詞・助動詞の承接を展開させた図。
- ④内題なし、「来」「為」「就」など各行音義的な俗語訳を列挙する。
- ⑤内題なし、完了「ぬ」に種々の助詞が接続した例を列挙し、俗語訳を付す。
- ⑥内題なし、打消「ず」に種々の助詞が接続した例を列挙し、俗語訳を付す。

前述の三点が比較的まとまった図表形式を備えているのに対して、これらは構想を書き付けたメモといった風情である。ここに見える俗語訳は、明治二四年刊『詞乃栞打聴』に反映されていることが確認できる。

黒川文庫小型本には、草稿「語学雑図」だけでなく、黒川真頼『詞の栞』の草稿や、大量の書入や胡粉の糊塗された原刻『詞の栞』が含まれている。これらは、黒川真頼の学説に直接関わるものとして、注目すべきものである。

また、当資料群には実弟・金子輝長による写本や、門弟が著わした刊本などが含まれる。中には「呈上」と書かれたものも見え、そうした資料は、周囲の人々から黒川家に持ち込まれたことが考えられる。これらは、黒川真頼の学問生活の環境がいかなるものであったか、間接的に伝える資料といえよう。筆写者の判然としない図表類の中にも、真頼自身や門弟たちの手によるものがあると想像される。

今回の調査によって、黒川文庫小型本の現在の所蔵状況が明らかにになり、『黒川文庫目録』『東大目録』、それぞれとの間に異同があることも確認することができた。本目録にも不備があるうと思われるが、今後補訂されることを期待したい。

「参考文献」

遠藤佳那子（二〇一六）「黒川真頼の活用研究と草稿「語学雑図」」『日

本語の研究』第二卷二号

黒川 真道（一九一九）『黒川真頼伝』奈良書店

黒川 真道編（一九一一）『黒川真頼全集』第六卷 国書刊行会

柴田 光彦（二〇〇〇—二〇〇二）『黒川文庫目録（本文編・索引編）』

青裳堂書店

東京大学文学部国語研究室編（一九八六）『東京大学文学部国語研究

室所蔵古写本・古刊本目録』東京大学文学部

《付記》

本目録を編成するにあたり、藤本灯氏（国立国語研究所特任助教）、田中草大氏（日本学術振興会特別研究員）両名には多大なご協力を賜った。ここに記して、深く御礼申し上げる。

（えんどう かなこ 上智大学特別研究員）

〔付記〕東京大学文学部国語研究室の黒川文庫語学之部には、その購入当初から小型本が含まれていた。多くは刊本であるが、写本もあり、小さく折り畳まれた形で伝存している。帙などはなく、古くは一括して封筒に入れられていた。これを最初に整理したのが昭和五十五年頃、当時国語研究室助手であった近藤泰弘氏であり、同氏により、内容別に分類され、厚紙のファイルに挟む形で保管されるようになった。平成二十二年頃、国語研究室では新たに小型の木箱六箱を作成し、これらの小型本を収納するようになった。同時に精査の結果、これらの中には「東京大学文学部国語研究室所蔵古写本古刊本目録」（昭和六十一年）に未収録のものがあつたり、書名の未詳のものなどがあり、新たにこの六箱の目録作成と書誌調査が必要であると考えられたが、そのためには、近世の国語学史、特に活用研究に関する豊富な知識が必須であり、教員を含め、研究室在籍者には困難であると考えられた。そこで、この方面に明るい上智大学特別研究員遠藤佳那子氏に委嘱し、目録の作成と書誌調査を依頼したものである。委嘱は平成二十六年十一月になされ、同十二月には一応の成稿を見たが、再治を経て、平成二十七年四月に最終的な報告を得たものである。ここに本稿を掲載するに至った経緯を明記し、遠藤佳那子氏には御協力に対し、深甚の謝意を表するものである。（月本雅幸）



【表一】各目録対照表

箱	書誌名	編著者	役付、巻数	番号	レ印	『黒川文庫目録』記載書名	『東大目録』記載書名
1	訓の泉	黒川真頼	写一巻	23	レ	訓の泉	訓の泉
1	訓の泉	黒川真頼	刊一冊	—	—	訓の泉(目録番号40か)	訓の泉
1	訓の泉〔再刻〕	黒川真頼	刊一冊	41	レ	訓の泉	訓の泉
1	訓の泉〔再刻〕	黒川真頼	刊一冊	42	レ	再刻訓の泉	再刻訓の泉
1	訓の泉〔再刻〕	黒川真頼	刊一冊	43	レ	再刻訓の泉	再刻訓の泉
1	訓のやちまたのしそり	黒川真頼	写四巻	28	レ	語学雑園	訓のやちまたのしそり
1	訓格対照	黒川春村 黒川真頼	刊一冊	44	レ	再刻訓の泉	訓格対照
1	【訓格対照】	黒川春村 黒川真頼	刊一冊	—	—	—	再刻訓の泉
1	諍の泉	黒川真頼	写八巻	28	レ	語学雑園	諍の泉
1	新撰てにそはのやちまた	黒川真頼	写七巻	28	レ	語学雑園	新撰てにそはのやちまた
1	表裏神頭あゆひ抄	—	写一帖	29	レ	表裏神頭あゆひ抄	(かさし抄・あゆひ抄抄書)
2	かたはみ神	隈村栄久	刊一帖	4	レ	かたはみ草	かたはみ神
2	活語自他捷覧	横山由清	刊一帖	20	レ	活語自他捷覧	活語自他捷覧
2	国語国音用字格	明倉修	刊一帖	33	レ	国語国音用字格	国語国音用字格
2	ちちのことき	谷森善保	刊一冊	34	×	【谷森氏活用図】	ちちのことき
2	ちまたのたつき	藤柄助之	刊一帖	10	レ	ちまたのたつき	ちまたのたつき
2	日本文法表 第一表	佐藤仁之助	刊一冊	45	レ	中等学校教材日本文法表 第一表	—
2	日本文法表 第二表	佐藤仁之助	刊一冊	46	レ	中等学校教材日本文法表 第二表	—
2	日本文法表 第三表	佐藤仁之助	刊一冊	47	レ	中等学校教材日本文法表 第三表	—
2	【拗音開合図】	太田全斎	写一帖	—	—	—	—
3	【語学雑園】	黒川真頼	写六巻	28	レ	語学雑園	—
4	音図人全	嶋元成	刊一冊	39	レ	音図人全	音図人全
4	仮字用例一覧	鎌野士良	刊一冊	30	レ	仮字用例一覧	仮字用例一覧
4	語格要覧	車宮寒真吾	刊一冊	12	レ	語格要覧	語格要覧
4	訓のしそり	桑田静敬	刊一冊	15	レ	訓乃しそり	訓のしそり
4	語法掌覧	千田徳風	刊一冊	19	レ	語法掌覧	—
4	新撰活語てにそは指掌図	小柳津賢人	刊一冊	35	レ	新撰活語てにそは指掌図	新撰活語てにそは指掌図
4	俗言活用図	—	写一冊	—	—	—	俗言活用図
5	あゆひ抄手鑑〔乙〕	春原元彦	写一冊	16	レ	あゆひ抄手鑑	あゆひ抄手鑑
5	あゆひ抄手鑑〔甲〕	春原元彦	写一冊	16	レ	あゆひ抄手鑑	あゆひ抄手鑑
5	経緯略図	—	刊一冊	25	レ	経緯略図	経緯略図
5	語学突理九品九格総括図式	藤井茂甲	刊一冊	24	レ	語学突理九品九格総括図式	語学突理九品九格総括図式
5	しきくと括く詞	—	刊一冊	22	レ	しきくと括く詞	—
5	天言活用図	海野幸典	写一冊	6	レ	天言活用図	天言活用図
5	天言活用図	海野幸典	刊一冊	7	レ	天言活用図	天言活用図
5	装脚結詞打合図	保田光明	刊一冊	9	レ	装脚結詞打合図	装脚結詞打合図
6	装図	春原元彦	刊一冊	17	レ	装図	装図
5	靈語指掌図	伊藤秀賢	刊一冊	14	レ	靈語指掌図	靈語指掌図
5	靈語指掌図	伊藤秀賢	刊一冊	38	レ	靈語指掌図	靈語指掌図
5	そらの鏡	武能謙人	刊一冊	—	—	—	—
6	活語四	—	写一冊	36	レ	活語四	活語四
6	活語略図	鈴木弘幸	刊一冊	18	レ	活語略図	活語略図
6	活語略図	鈴木弘幸	刊一冊	21	レ	活語略図	—
6	活語略図	鈴木弘幸	刊一冊	32	レ	活語略図	活語略図
6	五位十行活図式	清原道貞	刊一冊	26	×	五位十行活図式	五位十行活図式
6	五位十行活図式	清原道貞	刊一冊	27	レ	五位十行活図式	五位十行活図式
6	訓の真澄鏡	櫻田直助	刊一冊	37	レ	訓の真澄鏡	訓の真澄鏡
6	てにそは経鏡	本郷寛長	刊一冊	5	レ	てにそは経鏡	—
6	八衢まなび雑用抄	—	写一帖	8	×	八衢まなび雑用抄	—
6	和語説略図	龜門	刊一冊	13	レ	和語説略図	和語説略図
6	和語説略図〔補正版〕	龜門	刊一冊	11	レ	和語説略図	和語説略図

「レ」印欄「レ」：『黒川文庫目録』において「レ」印あり。「×」：『黒川文庫目録』において「レ」印なし。